

令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

漁港－1 漁港整備事業
新獅子漁港

事業主体 平戸市

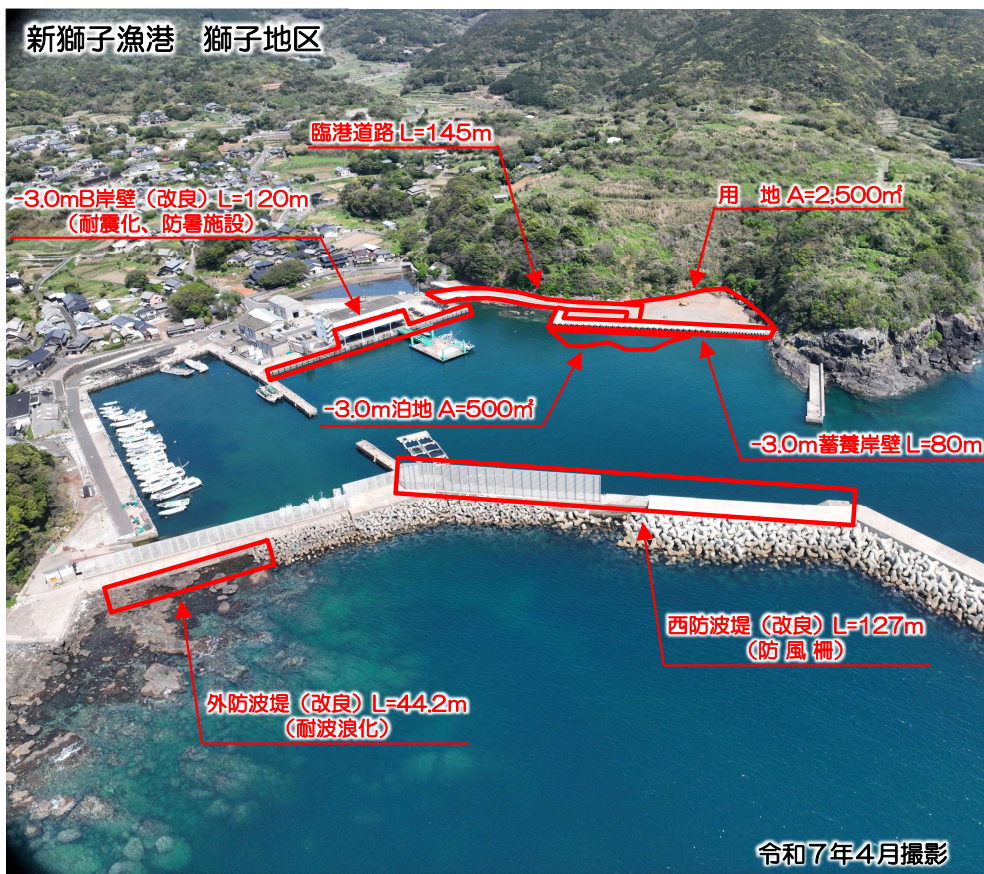
再評価
の理由 社会経済情勢の変化等



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H30新規)		H30	R4	5.1	1.18	西防波堤（改良） 100m 外防波堤（改良） 72m -3m泊地 500㎡ -3m蓄養岸壁 80m -3m B岸壁（改良） 105m -2.5m物揚場（改良） 40m 臨港道路 115m 用地 2,500㎡
第1回審議 (R7)	社会経済情勢の 変化等	H30	R9	11.6	1.10	西防波堤（改良） 127m 外防波堤（改良） 44.2m -3m泊地 500㎡ -3m蓄養岸壁 80m -3m B岸壁（改良） 120m -2.5m物揚場（改良） 33m 臨港道路 145m 用地 2,500㎡

2. 目的・事業概要



【事業目的】

新獅子漁港は平戸圏域の生産拠点の役割を担う漁港であり、特に定置網、引き網が盛んであり、ぶり、いか等を陸揚げし、年間の陸揚量は約500トン前後を誇っている漁港である。

当漁港は周辺5漁港の機能を集約し、特に漁獲物の陸揚機能集約による規模拡大に対応するため、岸壁、泊地、用地及び臨港道路を整備し、生産力及び品質向上を図るとともに、既存陸揚岸壁の耐震化及び既存防波堤の耐波浪化を行い、災害時の安全性及び持続的な漁業生産を確保する。併せて防風柵、防暑施設及び浮体式係船岸を整備し、漁業者の労働環境改善及び漁獲物の鮮度保持を図る。

3. 事業の効果・必要性

【新たな施設の整備】

- ・漁獲物の陸揚機能集約に伴う出荷量増加が見込まれているが、陸揚岸壁及び用地が不足している。また、港内の防風対策が必要である。



- ・岸壁、泊地、用地及び臨港道路の整備により、生産力の向上を図る。
- ・防風柵の整備により、労働環境改善を図る。

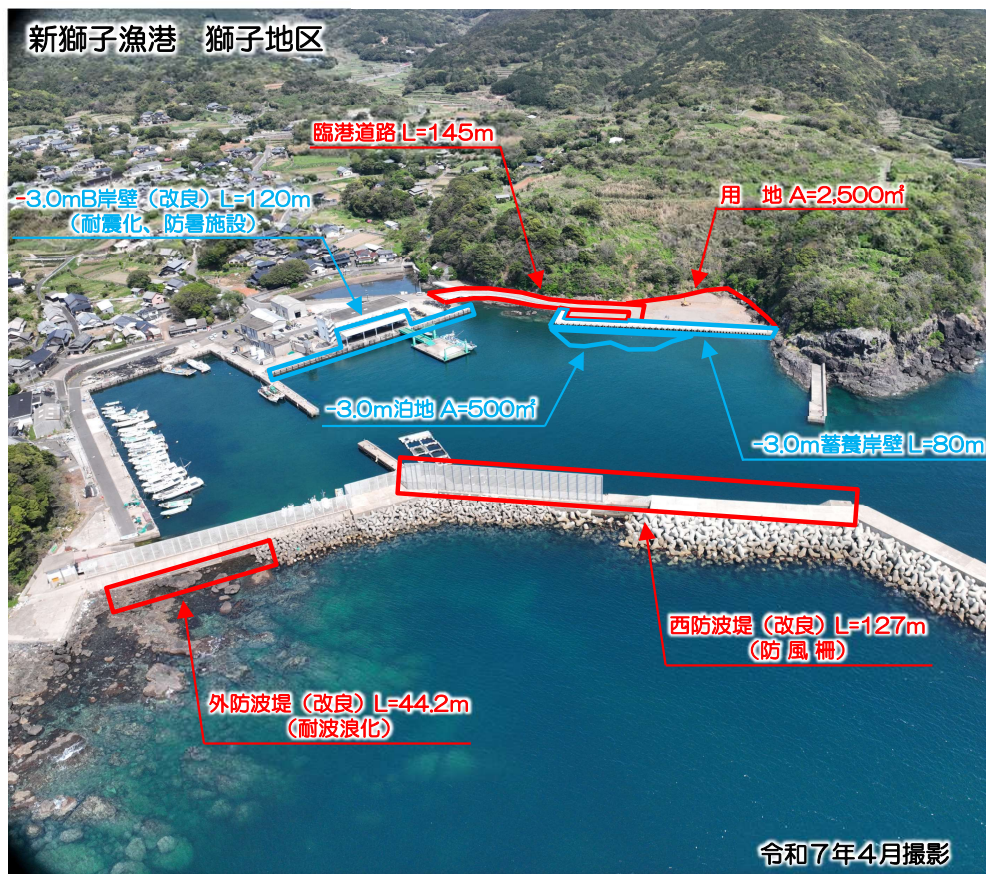
【既存施設の改良】

- ・外力（沖波、地震）に対して機能を満足しておらず、倒壊の恐れがある。
- ・岸壁上に屋根がなく、漁獲物の鮮度低下が懸念される。
- ・潮位差の影響により、出漁準備作業が重労働となっている。



- ・防波堤及び岸壁の改良により、災害時の安全性の確保を図る。
- ・防暑施設の整備により、漁獲物の鮮度保持を図る。
- ・浮体式係船岸の整備により、作業の軽労化を図る。

4-1. 事業の進捗状況



凡 例



既に完了
した施設



事業実施
中の施設

【進捗状況】

- ・-3.0mB岸壁(改良)は令和2年度末までに完成し、災害時の安全性確保及び漁獲物の鮮度保持が図られている。
- ・令和6年度末までに-3.0m泊地及び-3.0m蓄養岸壁が完成し、現在整備中である用地及び臨港道路と一体的な効果発現が期待される。

【進捗率】

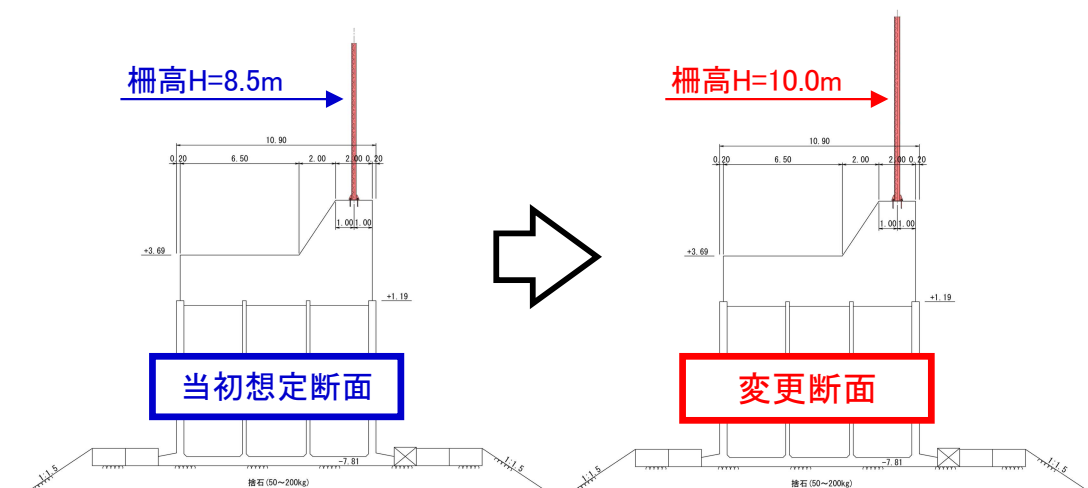
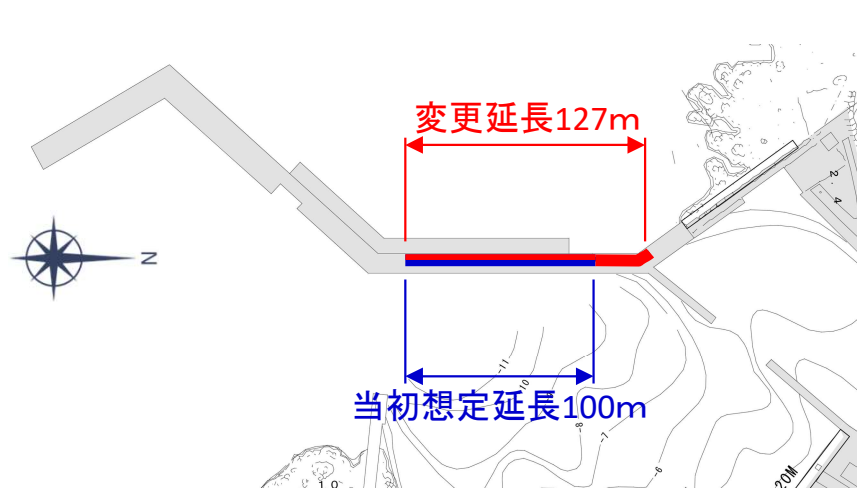
- ・73.3%(令和6年度)

4-2. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

【事業費増】 5.1億円(前回) → 11.6億円(今回)

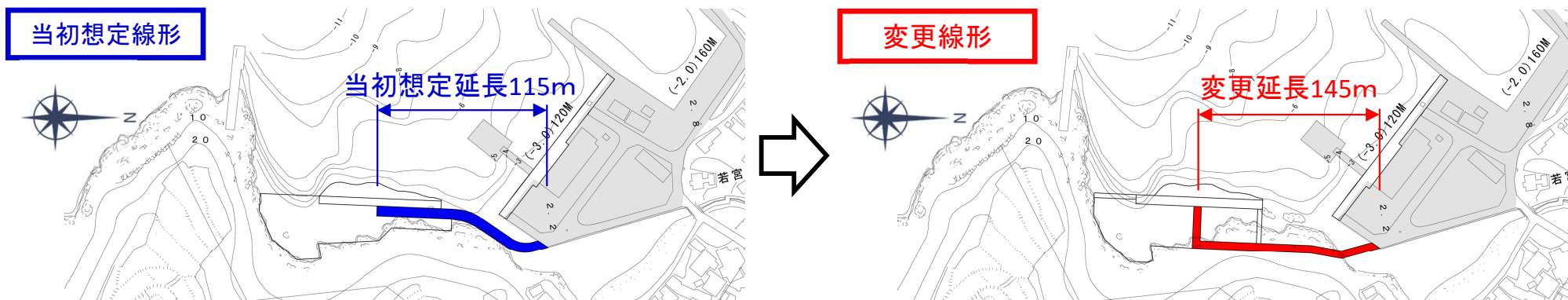
施設名	事業費増の内容	増額	主な増額理由
①西防波堤(改良)	防風柵の延長・柵高変更	約0.5億円	詳細設計の結果、当初想定より広範囲に風の影響を受けることが判明したため、延長及び柵高を変更。
②臨港道路	道路線形の変更	約0.5億円	地元協議の結果、活魚出荷時に走行する活魚車の走行性向上のため道路線形を変更。
③全施設	資材単価・労務単価上昇	約5.5億円	資材単価・労務単価の上昇。
計		約6.5億円	

①西防波堤(改良):防風柵の延長・柵高の変更(約0.5億円)



4-2. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

②臨港道路: 道路線形の変更(約0.5億円)



③全施設: 資材単価・労務単価上昇(約5.5億円)

	平成29年度(前回)	令和7年度(今回)	上昇率
生コン	14,600円/m ³	22,600円/m ³	約55%増
捨石 (5~200kg)	4,350円/m ³	7,850円/m ³	約81%増
軽油	107円/ℓ	163円/ℓ	約52%増
重油 (A)	74円/ℓ	130円/ℓ	約76%増
特殊作業員	18,200円/人	24,600円/人	約35%増
とび工	19,500円/人	26,500円/人	約36%増
土木一般世話役	19,800円/人	28,300円/人	約43%増
普通船員	19,300円/人	25,800円/人	約34%増

4-3. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

◆事業期間の見直し

【完了時期】 R4(前回) ⇒ R9(今回)

【前回】

総事業費: 5.1億円	H30	H31	R2	R3	R4
測量・調査・設計					
工事(西防波堤(改良))					
工事(外防波堤(改良))					
工事(-3.0m泊地)					
工事(-3.0m蓄養岸壁)					
工事(-3.0mB岸壁(改良))					
工事(-2.5m物揚場(改良))					
工事(臨港道路)					
工事(用地)					

【今回】

変更理由：臨港道路の道路線形にかかる地元調整(約1年)が必要となった。

西防波堤(改良)の整備延長の増により工事期間が延長(約1年)となった。

用地埋土(工事間流用土)の搬入時期調整(約3年)が必要となった。

総事業費: 11.6億円	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
測量・調査・設計										
工事(西防波堤(改良))									工事期間延長	
工事(外防波堤(改良))										
工事(-3.0m泊地)										
工事(-3.0m蓄養岸壁)										
工事(-3.0mB岸壁(改良))										
工事(-2.5m物揚場(改良))										
工事(臨港道路)			地元調整							
工事(用地)				埋土搬入時期調整						

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (平成29年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	—	3.90 = 14.28億円 / 3.66億円
全事業	1.18 = 5.45億円 / 4.62億円	1.10 = 15.25億円 / 13.82億円

〔費用〕

- ・外郭施設及び係留施設の改良に要する費用、係留施設、水域施設、漁港施設用地及び輸送施設の新設に要する費用

〔便益〕

- ・水産物生産コストの削減効果、漁獲物付加価値化の効果、漁業就業者の労働環境改善効果、生命・財産保全・防御効果

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増(西防波堤(改良)及び臨港道路の整備延長増、資材単価・労務単価上昇)
- ・工期の延長

◆ B/Cでは計測できない効果

- ・漁業者の安心度の向上

6. 対応方針(原案)

- 新獅子漁港は、周辺漁港に分散していた漁獲物の陸揚げ機能を集約するなど、圏域内の生産の拠点漁港として重要な役割を担っている。
- 本事業は既存の防波堤や岸壁等を改良することで、漁業活動の安全性の確保、漁業従事者の労働環境改善及び水産物の鮮度保持が図られ、また、岸壁や用地等を整備することで、生産力の向上が図られるものであり、漁業従事者から早期完成が求められている。
- 事業進捗率は事業費ベースで73.3% [8.5億円/11.6億] (令和6年度) となっている。
- 可能な限りコスト縮減を図ってきており、事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減は見込めず、また、代替案の可能性はない。

上記理由により、整備効果が十分に見込まれる事業であることから、引き続き継続

